

## 「環境学習会」 × 「eco サッカー教室」



(一社) 秋田県産業廃棄物協会 × (株)ブラウブリッツ秋田



平成 27 年 10 月 11 日 (日) に、青年部会の環境教育事業として、ブラウブリッツ秋田と共同で、小学 3 年生から 6 年生の子供たちを対象にサッカーをしながら 3 R を学ぶ環境学習会を開催しました。

参加したのは、ブラウブリッツ秋田サッカースクールの生徒ら 29 名と青年部会員の児童 9 名の合計 38 名。

9 時 30 分から、あきぎんスタジアムで開会式を行い、山岡会長とブラウブリッツ秋田の岩瀬社長から子供たちに向け挨拶があり、そのあと、スポーツ科学センターに移動。



高島青年部会長が講師役となって、「環境学習」を行いました。

スライドを使った講義では、江戸時代の 3 R から現在のごみ・リサイクルの話までユーモアを交えて解説。昔の町は不要なものなど一つもなく 3 R が盛んだった話など、歴史の勉強にもなった 30 分間でした。

最後に、「きれいな秋田にしよう！」と呼び掛けました。



続いて、八橋健康広場に場所を移し、鎌田スクールコーチが講師役となり、「eco サッカー教室」を行いました。サッカーの練習で使うビブスを活用し、可燃ごみや粗大ごみ、資源ごみなどの種類から分別を考えてゲームをしよう、という内容に、子供たちはサッカーを通じながら、ごみの分別についても楽しく学ぶことができました。

今回、FW9<sup>もれいら</sup>盛礼良レオナルド選手にもご参加いただき、迫力あるドリブルとスルーパスを体感した子供たち。いい思い出になったと、感激していました。



廃油は可燃ゴミと説明する鎌田コーチ



つねに本気モードのレオナルド選手



前半はルールに戸惑って動きが止まっていた子供たちも、後半になると適正な廃棄物の相手先を見つけ、パスやシュートを決めていました。



また、青年部会員は、早朝から会場設営や球出し・ピッチ回りでサポートを行い、あっという間の3時間となりました。

今後も、協会とプロサッカーチームが融合した「ecoサッカー教室」を継続し、サッカーとごみの分別とを結び合わせた新しい「環境学習会」を子供たちに提供していきたいと思ひます。



(c)2015 BLAUBLITZ'AKITA / Rico(BBPU)

【新聞記事】



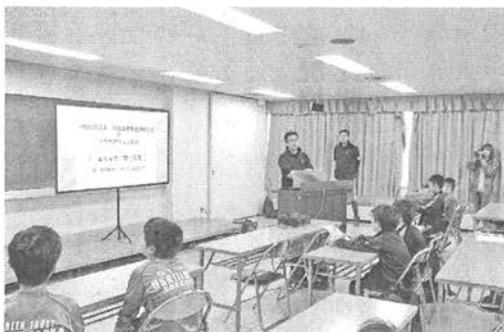
（社）秋田県産業廃棄物協会（山岡緑三郎会長）とブラウブリッツ秋田は10月11日、秋田市内で「ecoサッカー教室」を開催した。ブラウブリッツ秋田サッカースクールの生徒や同協会青年部会員の子どもら38人が参加、サッカーを通じ、ごみの分別について楽しく学んだ。同協会青年部活動の一環で同協会会員とブラウブリッツ秋田のコーチ達が協力し、企画した。

最初の環境学習は同協会の高島慶人・青年部会長が講師を務めた。テーマは「江戸時代の3R」。子どもたちに親しみやすいウンチの話から、現在のごみリサイクルの話までユーモアを交えて解説。ごみの分別で「きれいな秋田を」と呼び掛けた。続いて、屋外での「ごみの分別サッカーゲーム」。サッカーの練習で使うピラスを分別の理解や学習に活用。ピブ

ごみの分別ゲームで楽しく

秋田県産廃協／ブラウブリッツ秋田

青年部活動の一環、ecoサッカー教室



ecoサッカー教室での環境学習のようす（写真提供：ブラウブリッツ秋田）



サッカーを通じてごみの分別を学ぶ（写真提供：ブラウブリッツ秋田）



ecoサッカー教室の参加者たち（写真提供：ブラウブリッツ秋田）

スに可燃ごみや粗大ごみ、資源ごみなど分別の名称を書いた紙を掲げる。子どもらは可成り紙を貼る、バスどちらかを見極め、正しい方を選び、瞬間の状況判断が必要とされるサッカーごみの分別とを巧みな会員枠といえる。

高島青年部会長は「子どもたちがサッカーを通して、楽しく学べたと思う。今後もこうした機会を提供していきたい。また、業界だけの枠に捉われずに環境保全・地域活性という同じベクトルを掲げる他業種・他団体との交流も深め、地域全体に広がる波及効果にも期待したい」と声を寄せた。

同協会は今年度からブラウブリッツ秋田のサポーター団体として加盟、ブラウブリッツ練習などを行った。

試合は「資源」と書かれたゴールと「可燃」と書かれたゴールをそれぞれ用意。ピッチの

に結び合わせた学習方法といえる。